

第5章 結論

本論文においては、望ましい海岸管理制度について、歴史的・自然現象の理解・社会状況の変遷を含めた包括的な観点で論述した研究が世界的にも少ない背景を認識したうえで、我が国における一般海岸に着目し、海岸管理の歴史的な変遷を踏まえて、海岸法の創設及び改正に至る経緯と特徴を整理した。さらに、海岸を取り巻く自然・社会状況の変化とその対応策を論じるとともに、海岸法の改正によって導入された新しい海岸管理制度の確立に向けての実践と今後の海岸管理のあるべき姿について論じた。

本論文における主要な結論は、次の通りである。

1. 一般海岸は、小規模な塩田や干拓地の背後を守るために民間等で管理されていたがそれらが大規模化すると共に災害時の対応が困難になり、公的な管理形態になったものである。
2. 海岸の制度上の位置づけは、河川等の他の公物を法律で管理する体系と異なり、明治維新の制度改革時においても、国有財産として財産管理のみを行うこととなり、「法定外公物」であった。1956（昭和 31）年の海岸法（以下、「海岸法」と言う）の創設により、防災を主体とする区域は公物管理をする法体系となったが、依然として大部分の海岸は他の公物とは異なった管理をする制度上の位置づけのままであった。
3. 海岸法の創設は、戦後の海岸災害を契機として行われたことにより、施設を主体に管理するという体系であったために、海岸防災対策という面では施設整備が大幅に進み多大な効果があった。しかしながら、一方で海岸侵食の進行には対応が遅れる結果となり、海岸環境に対する管理が疎かになる側面があった。
4. 海岸保全施設の設計法など海岸制度の具体化においては、それぞれの時機における最新の学術の成果が取り入れられた。一方、海岸に関する情報は科学的な調査に基づくものが少なく、海岸で生起する諸過程に対するメカニズムも未解明なものが多く残されている。海岸を取り巻く自然状況の変化を解明するためには、海岸侵食等に関する情報の分析や水質劣化への対応方策に関する研究についての取り組みを継続することが重要である。
5. 海岸法の創設後、時代の流れに応じた自然・社会状況の変化には、事業上の工夫や考え方の変更等で順応的な対応が図られてきた。しかしながら、世界的な環境意識の高まりに加え、国民の価値観の多様化、地方分権の推進などが進み、さらに海岸防護

だけでは対処できない油濁事故も頻発するなどの背景から、防護・環境・利用の調和の取れた総合的な海岸管理制度を行っていくため、1999（平成 11）年の海岸法の抜本的改正（以下「海岸法の改正」と言う）に至った。

6. 海岸法の改正においては、国と地方の役割分担を明確化しており、次の三点が特徴的である。
 - ・ 新しい海岸保全の計画の仕組みが出来、国が基本方針を、都道府県が基本計画を作成することになり、それらの策定時には学識経験者や関係住民の意見聴取の手続きを規定している。
 - ・ 海岸環境を保全するためには、あまねく全国の海岸を対象とすることが必要であったため、新しく「一般公共海岸区域」が創設されて、明治維新以来の制度上の課題であった全ての海岸を公物として管理する法体系が確立された。これにより、海岸環境や海岸利用に関する日常的な海岸管理を市町村が行えるようになり、地域の特性を生かしたような海岸管理が出来るようになった。
 - ・ 沖ノ鳥島のように国土保全上極めて重要な海岸については、国が直接管理出来るようになった。特に、これは海岸法の体系の中で、領土・領海の基線となっている海岸の保全を積極的に位置付けることになったもので、部分的ではあるが沿岸域管理に近い仕組みが出来たとと言える。
7. 特に、海岸法の改正で「環境」が目的に明記された理由は、海岸特有の問題と必要性からであることを明確に示した。形の上では 1997（平成 9）年の河川法の改正により「環境」目的が入ったことが直接の契機となって、海岸法に「環境」目的が位置付けられたと言われているが、その認識は違っている。
8. 海岸法の改正に基づく新しい海岸管理制度の確立のために様々な施策が実践されてきたが、今後の方向性としては、広範で迅速な管理のための情報の整備、多種多様な参加を促進するための環境施策の充実、総合土砂管理施策の推進を始めとして連携の一層の強化の三点に重点化して取り組んでいくことが必要である。
9. 今後の海岸管理制度のあるべき姿としては、最近の関連制度の動きも踏まえて、海岸法の改正では部分的にしかなし得なかったが、将来的に目指す方向性として、諸外国で見られるように、より広域の管理を含めた「沿岸域管理制度の創設」が必要である。

今後の課題としては、地球規模の環境問題への対応が急がれている今日、海域の水質問題や流域の水・物質管理を含めより包括的な議論をして、新しい沿岸域管理の枠組みを構築していくことが必要である。